

未来へ託せ 自分の夢と目標

山紫海碧

三十一日(土)、有銘小学校百周年記念行事の一環として埋設したタイムカプセルの開封式が午後二時より、体育館でありました。埋設された日は、二十年前の六月二十七日(金)と記念誌にはあります。式は、事務局の島袋翼さんが進行し、実行委員長の仲宗根繁博氏が開封式に対する思いを紹介、二十年前の自分達と対面する喜びを共に味わいたいと語った。また、二十年後でも仲間と話したりとて、交流しているとして、在校生へは、小中共に幅広く語り、協力し、有銘校生として楽しく過ごしてほしいとメッセージを送った。



有銘幼小中学校
学校便り 91号
山紫に海碧く
H27.11.2



在校生代表あいさつで仲泊成人さんは、「タイムカプセルの開封式おめでとうございます。当時の小中生は二十年前って長いなー。どうなっているかなーと思ながら埋めたと思うです。どんな思い出が詰まっていたか。今度は、このカプセルに僕たちの夢や希望、思い出を話めて、未来に残していきたいです。と、カッコ良く語った。

タイムカプセルの保存状態は、すのびる良く、専用の保存袋に保管され、写真や文字もきれいに残っていました。

カセットテープもビニールに包まれており、乾燥剤も入ってカビらしきものもなく、よい保存状態でした。

開封式も盛況に終わり、公民館での二次会は、テープ鑑賞や上映会、思い出話に花が咲いたことでしょ。実行委員会の皆さん、準備や運営、かたづけ等、お疲れ様でした。

タイムカプセル容器は、大切に使用させていただき、未来へ託したいと思えます。



開封式も盛況に終わり、公民館での二次会は、テープ鑑賞や上映会、思い出話に花が咲いたことでしょ。実行委員会の皆さん、準備や運営、かたづけ等、お疲れ様でした。

タイムカプセル容器は、大切に使用させていただき、未来へ託したいと思えます。

五・六年生が平良区の宮里ミヅ子さん宅を三十日(金)に訪問しました。昭和三十七年から四期にわたり、東村長を勤められた、故、宮里松次氏の業績をもとに、有銘校で構想された、演じられる「宮里松次物語」の追加取材で訪問しました。

五・六年生より、「東村に帰ってきた松次さんは何を思っていましたか」、「松次村長はどんな人でしたか」や「外人と交渉する時、英語で話したんですか」、「宮里藍さんとは親戚ですか」などの質問に奥



宮里松次物語の深 化を求めて取材の深



様のミヅ子さんは、当時の様子を振り返りながら、お話をしてくれました。お話を伺う中で、新たなエピソードも得られました。十二月の学推発表会で発表したいと思えます。ありがとうございます。

